

ホソアトキハマキ (別名 リンゴモンハマキ)

広葉樹やカラマツの葉を糸で綴り合わせるイモムシ (幼虫)。最大長約25mm。頭は茶色または黒色。体は緑色、背中に白い斑点が並ぶ。6月と8月に発生。

リンゴやナシなどバラ科果樹では害虫とされている。



1. 終齢幼虫, 体長25mm. 1989/8/8. 美唄市, シラカンバ.



2. 雌成虫, 体長9mm, 1を飼育.



3. 雄終齢幼虫, 体長25mm. 1991/6/1. 新得町, アオダモ.



4. 幼虫の巣. 1991/6/1. 3の巣.

【学名】 *Archips breviplicanus*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera), ハマキガ科 (Tortricidae), ハマキガ亜科 (Tortricinae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島, 中国, サハリン, シベリア.

【特徴】

幼虫は終齢で体長23~25mm。体は緑色あるいは灰色がかった緑色、時に背面が暗くなる個体もある。頭部は褐色（雌および夏の雄）または黒色（春の雄）。前胸背楯は黒色、前半中央で褐色、前縁は黄白色。刺毛基板は体より白く、明瞭。胸脚は前脚あるいは前・中脚が黒色で残りが黄褐色、もしくはすべて黒色。

刺毛基板がすべて白っぽい点でアトボシハマキに似るが、アトボシハマキの幼虫は終齢では頭部が褐色で黒い斑紋があり、巣の内部の葉が枯れている。

【生態】

宿主：カラマツ， ヤナギ科， カバノキ科， ブナ科， バラ科， クワ科， モクセイ科などの樹木， マメ科（ダイズ）などの草本。

年2回発生， 若～中齢幼虫で越冬， 成虫は6～7月と8～9月に出現するといわれる。

北海道では6月上旬と8月上旬に老齢幼虫が採れ， 室内飼育したところそれぞれ約2週間後に成虫になった。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
幼虫（越冬）	+++	+++	+..					...++	+++
幼虫（摂食・成長）			..■■■	■..	..■■■	■..	..■■■	..	
蛹				..◇◇◇◇	..		
成虫・卵				..○	○..	..○	○..		

【被害と防除】

果樹園ではリンゴやナシなどのバラ科果樹の害虫とされているが， 他の樹木では発生量は少なく， 防除が必要とされた例はない。

【文献】

1957. 江崎悌三ほか. 原色日本蛾類図鑑（上）：I-XIX, 1-318, pls 1-64. 保育社， 大阪.

1975. Yasuda, T. The Tortricinae and Sparganothinae of Japan (Lepidoptera: Tortricidae) (II). Bull. Univ. Osaka Pref., ser. B, 27: 79-251.

1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病虫害図鑑:I-VIII, 1-365, pls 1-64. 保育社， 大阪.

1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol.1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社， 東京.

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129.

1986. 山口昭, 大竹昭郎, 編集. 果樹の病虫害, 診断と防除. 全国農村教育協会, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ホソアトキハマキ hamaki/hosoato/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1994/5/14-2001/12/21.

1yochu.JPG, 1seichu.JPG, 2yochu.JPG, 2yochusu

「写真1～4」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1989-1991.